

平成19年京都市の合計特殊出生率

平成19年の京都市独自集計の合計特殊出生率が算出できましたので、紹介します。

○はじめに

合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、期間合計特殊出生率とコーホート合計特殊出生率の2種類があり、ここでは、通常、年次比較や地域比較に用いられる期間合計特殊出生率について紹介します(なお、期間合計特殊出生率とコーホート合計特殊出生率については最終ページの「参考」をご覧ください。)

本市では、合計特殊出生率の算出に使用する基礎資料として、出生数は、厚生労働省「人口動態調査(平成19年)」の母の年齢(5歳階級)別出生数、女性人口は住民基本台帳の年齢(5歳階級)別女性人口を用いています。

1 平成19年の合計特殊出生率(独自集計)

平成19年の京都市の合計特殊出生率は「1.14」で、前年と同数になりました。ただし、この数値は小数点第3位を四捨五入して表記したものであり、計算上は「0.005」程度の微減となっています。

前年増加した出生数は今回減少しましたが、女性人口が引き続き減少しているため、合計特殊出生率は微減となりました。

表-1 合計特殊出生率の計算結果

母の年齢階級	出生数(人)		女性人口(人)		合計特殊出生率	
	平成18年	平成19年	平成18年	平成19年	平成18年	平成19年
合計	11,845	11,534	317,925	315,999	1.143636	1.138718
15~19歳	151	143	31,148	30,457	0.024239	0.023476
20~24歳	1,144	1,035	44,711	43,500	0.127933	0.118966
25~29歳	3,294	3,159	49,689	48,005	0.331462	0.329028
30~34歳	4,841	4,675	56,938	54,666	0.425112	0.427597
35~39歳	2,136	2,207	52,549	53,790	0.203239	0.205150
40~44歳	275	307	44,161	45,827	0.031136	0.033496
45~49歳	4	8	38,729	39,754	0.000516	0.001006

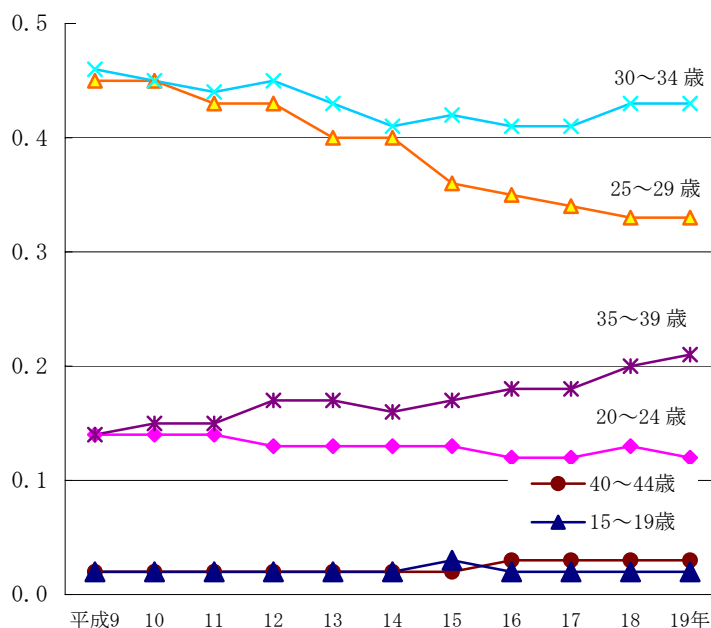
注)平成18年の出生数は50歳以上の1人を45歳から49歳に、平成19年の出生数は14歳以下の1人を15歳から19歳にそれぞれ含んでいます。

2 母の年齢(5歳階級)別合計特殊出生率

合計特殊出生率を母の年齢(5歳階級)別にみると、20歳代では低下傾向にある一方、30歳代では2年連続で上昇しています。特に35歳から39歳までは女性人口と共に出生数も増加し、出生率も増加しています。出生数の最も多い30歳から34歳までの出生数は減少しているものの、同世代の女性人口の減少率が大きいこと出生率は微増となっています。

また、平成9年以降11年連続で、30歳から34歳までの出生率が最も高くなっています。一方、平成8年に最も高かった25歳から29歳までの出生率は低下傾向にあります。(図-1、次ページ表-2参照)

図-1 母の年齢(5歳階級)別合計特殊出生率の推移



注)45~49歳は数値が小さいため、グラフは省略しています。

表－２ 母の年齢（５歳階級）別合計特殊出生率の推移

年齢階級	平成 9 年	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年
合 計	1.23	1.23	1.20	1.21	1.16	1.15	1.14	1.12	1.11	1.14	1.14
15～19 歳	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02
20～24 歳	0.14	0.14	0.14	0.13	0.13	0.13	0.13	0.12	0.12	0.13	0.12
25～29 歳	0.45	0.45	0.43	0.43	0.40	0.40	0.36	0.35	0.34	0.33	0.33
30～34 歳	0.46	0.45	0.44	0.45	0.43	0.41	0.42	0.41	0.41	0.43	0.43
35～39 歳	0.14	0.15	0.15	0.17	0.17	0.16	0.17	0.18	0.18	0.20	0.21
40～44 歳	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.03
45～49 歳	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

3 行政区別合計特殊出生率

合計特殊出生率を行政区別にみると、最も高いのは6年連続して南区で1.36、次いで伏見区(1.26)、西京区(1.24)の順となっています。最も低いのは東山区、上京区の0.84で、次いで中京区(0.92)の順となっています。また、京都市の「1.14」を上回る行政区は、山科区、南区、右京区、西京区、伏見区の5行政区となっており、周辺区で高くなっています。

前年と比べて、東山区、中京区が0.05ポイント上昇したのをはじめ6行政区で上昇しています。一方、上京区、下京区が0.06ポイント低下したのをはじめ5行政区で低下しています。

表－３ 行政区別の合計特殊出生率

	市計	北	上京	左京	中京	東山	山科	下京	南	右京	西京	伏見
合計特殊出生率												
平成 11 年	1.20	1.08	0.82	1.03	0.97	0.77	1.25	1.00	1.46	1.14	1.46	1.42
12 年	1.21	1.03	0.87	1.08	1.00	0.81	1.35	1.03	1.40	1.29	1.37	1.36
13 年	1.16	1.06	0.90	1.01	0.93	0.78	1.21	0.93	1.34	1.17	1.33	1.37
14 年	1.15	1.04	0.87	1.02	0.96	0.72	1.21	1.06	1.37	1.21	1.35	1.28
15 年	1.14	1.02	0.83	1.01	0.92	0.73	1.22	1.03	1.39	1.18	1.26	1.29
16 年	1.12	1.03	0.89	0.98	0.84	0.66	1.24	1.00	1.32	1.17	1.25	1.25
17 年	1.11	1.05	0.90	1.01	0.93	0.69	1.15	0.95	1.38	1.18	1.25	1.23
18 年	1.14	1.10	0.90	1.04	0.87	0.79	1.20	1.05	1.33	1.19	1.28	1.28
19 年	1.14	1.13	0.84	1.07	0.92	0.84	1.22	0.99	1.36	1.18	1.24	1.26
15～19 歳	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.03	0.03	0.04	0.03	0.02	0.02	0.03
20～24 歳	0.12	0.08	0.05	0.06	0.07	0.08	0.17	0.06	0.20	0.11	0.14	0.18
25～29 歳	0.33	0.31	0.21	0.30	0.22	0.23	0.36	0.23	0.43	0.37	0.38	0.39
30～34 歳	0.43	0.45	0.36	0.44	0.38	0.28	0.42	0.40	0.47	0.45	0.47	0.42
35～39 歳	0.21	0.23	0.16	0.23	0.20	0.19	0.20	0.21	0.20	0.20	0.19	0.21
40～44 歳	0.03	0.05	0.04	0.04	0.04	0.02	0.04	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03
45～49 歳	0.00	—	0.00	—	—	0.00	—	0.01	0.00	—	0.00	0.00
母の年齢（５歳階級）別出生数（人）												
平成 19 年	11,534	848	463	1,147	743	215	1,157	618	874	1,593	1,420	2,456
15～19 歳	143	7	3	8	3	4	19	9	12	21	15	42
20～24 歳	1,035	58	26	62	48	22	130	35	111	126	129	288
25～29 歳	3,159	197	121	297	181	64	315	165	266	455	391	707
30～34 歳	4,675	355	204	493	321	71	452	265	335	662	598	919
35～39 歳	2,207	193	90	251	165	48	211	123	133	294	251	448
40～44 歳	307	38	18	36	25	5	30	19	16	35	35	50
45～49 歳	8	—	1	—	—	1	—	2	1	—	1	2

注) 平成19年の出生数は14歳以下の1人を15歳から19歳に含んでいます。

4 全国及び京都府との合計特殊出生率の比較

平成19年の全国及び京都府の合計特殊出生率は、それぞれ1.34、1.18で、前年と比べて、全国は0.02ポイント上昇、京都府は0.01ポイント低下しています。

京都市の「1.14」と比べると、全国では0.20ポイント、京都府では0.04ポイントそれぞれ京都市が低くなっています。

表－4 京都市、京都府、全国の合計特殊出生率の推移

年次	出生数(人) a)			合計特殊出生率 b)		
	京都市 c)	京都府	全国	京都市 c)	京都府	全国
昭和45年	25,240	41,235	1,934,239	1.91	2.02	2.13
50年	22,457	39,921	1,901,440	1.66	1.81	1.91
55年	17,619	32,139	1,576,889	1.54	1.67	1.75
60年	15,643	28,479	1,431,577	1.55	1.68	1.76
平成元年	13,590	24,855	1,246,802	1.41	1.46	1.57
2年	13,386	24,209	1,221,585	1.38	1.48	1.54
3年	12,945	23,487	1,223,245	1.34	1.39	1.53
4年	13,113	23,838	1,208,989	1.34	1.38	1.50
5年	12,611	23,082	1,188,282	1.27	1.32	1.46
6年	13,352	24,245	1,238,328	1.33	1.37	1.50
7年	12,673	23,219	1,187,064	1.25	1.33	1.42
8年	13,204	24,023	1,206,555	1.27	1.30	1.43
9年	12,946	23,595	1,191,665	1.23	1.26	1.39
10年	13,144	24,312	1,203,147	1.23	1.26	1.38
11年	12,868	23,831	1,177,669	1.20	1.22	1.34
12年	13,002	23,997	1,190,547	1.21	1.28	1.36
13年	12,513	23,364	1,170,662	1.16	1.20	1.33
14年	12,386	22,859	1,153,855	1.15	1.17	1.32
15年	12,072	22,371	1,123,610	1.14	1.15	1.29
16年	11,764	22,066	1,110,721	1.12	1.14	1.29
17年	11,612	21,560	1,062,530	1.11	1.18	1.26
18年	11,845	22,100	1,092,674	1.14	1.19	1.32
19年	11,534	21,597	1,089,818	1.14	1.18	1.34

a) 出生数は厚生労働省「人口動態統計」によります。

b) 算出に用いる女性人口について、京都市は住民基本台帳人口の女性人口（昭和60年以前は国勢調査による日本人女性人口）を、京都府及び全国は国勢調査実施年は国勢調査による日本人女性人口、その他の年は京都府が推計人口による女性人口、全国は推計人口による日本人女性人口を使用しています。

c) 京都市の出生数には、平成17年3月までの京北町分を含みません。また、合計特殊出生率は、当時の市域で算出しています。

参考

1 「期間合計特殊出生率」と「コーホート合計特殊出生率」について

「期間合計特殊出生率」は、ある期間（1年間）の出生状況に着目して、その年における各年齢（15歳から49歳まで）の女性の出生率を合計したものです。

「コーホート合計特殊出生率」は、ある世代の出生状況に着目して、同一年生まれ（コーホート）の女性の各年齢（15歳から49歳まで）の出生率を積み上げたもので、「一人の女性が一生の間に生む子どもの数」を意味する出生率です。ただし、この出生率はその世代が50歳になるまで得られないため、通常、年次比較、国際比較、地域比較に用いられている合計特殊出生率は、「期間合計特殊出生率」により算出されています。

2 京都市の合計特殊出生率の算出方法

年齢（5歳階級）ごとに母の年齢別出生数を住民基本台帳による年齢別女性人口で除したものを5倍にした数値を足し上げています。合計特殊出生率は、年齢（各歳）ごとの出生率を足し上げる仕組みであることから、5歳階級で計算する場合は当該年齢階級の平均値を5倍しています。